

歴史と出会えるまち船場城西編



35分

姫路藩の経済を支えた名残の史跡や名刹も多い船場城西地区。
西国街道を歩きながら、なつかしい城下町の面影を探しましょう。



1 好古園



2 市之橋門跡



3 舟入川跡



4 見星寺



5 景福寺



6 のこぎり横丁



7 橋屋 (みそ・麴)



9 初井家



10 舟つなぎ石



8 西国街道



11 原田光明堂 (仏壇)



12 動王志士の墓



12 船場本徳寺



歴史と出会えるまち船場城西



35分

姫路藩の経済を支えた名残の史跡や名刹も多い船場城西地区。
西国街道を歩きながら、なつかしい城下町の面影を探しましょう。

1 好古園

市制100周年を記念して作られた日本庭園で敷地1万6千坪で9つの庭園がある池泉式回遊式日本庭園です。本多時代の別宅と高級武士の家があった所です。

2 市之橋門跡

中堀に架かる橋でこの付近は材木の市場があった所です。

5 景福寺

禅宗曹洞宗の寺院。寺地は姫路藩主が菩提寺を置いた所。景福寺は藩主酒井家が菩提寺としたもので、藩主の墓所は前橋にあるが奥方三代の墓石があり、酒井忠学の室となった喜代姫は11代將軍家斉の娘、その娘喜曾姫は藩主忠宝の妃、婉姫は藩主忠積の妃。寺の裏山には姫路藩主松平明矩の墓所をはじめ姫路藩士の墓石が並んでいます。

6 のこぎり横町

姫路には民家の間口が道路に対して、ある程度の角度をもっている町並みが野里地区とここ船場城西地区。そのため街路がのこぎりの刃のようになっていて、このようになっているのは城下町の防御性から来たという説があります。

7 橋屋 (みろ・麴屋)

吉田町にある江戸初期から今日まで続くみそ屋さん。吉田町は池田輝政が姫路藩主となり、三河の吉田から姫路へ移って来た時に一緒に移り住んだ町でこの店もその時以来商売を続けている老舗です。

8 西国街道

京・大阪より姫路城下を通り、西国、九州方面に通じていた主要往還。秀吉時代から往時には姫路一の繁華な街道筋でした。現在も町屋が点在し、姫路初の商店街の面影が残っています。

9 初井家

北原白秋に師事した歌人、初井しず枝の婚家。初井家は江戸～明治時代の豪商で江戸時代の建物。周辺は町屋が点在し、姫路初の商店街の面影が残っています。

10 船つなぎ石

民家の壁に説明板があり、巨石があります。元は船場川岸にあり、高瀬舟をつないだ岩といわれています。

11 原田光明堂(仏壇屋)

現在八代目を継ぐ「姫路仏壇」の老舗。江戸時代からの伝統の製法で今も作り続けており、日によっては訪問すると塗り物や金箔押しの様子がみられます。(定休日1日・15日)

12 船場本徳寺

浄土真宗大谷派の別院。江戸初期藩主本多忠政(1618)の時に創設されました。本堂は江戸期の建物で規模も大きいもの。境内には定期的に築市等開催されています。明治天皇が宿泊された行在所、ドイツ兵の捕虜が故郷を偲んで作成した忘郷塚(モニュメント)、勤王志士の墓、西南戦争の役供養碑もあり、見どころたくさん。

3 舟入川跡

炭屋橋の下をくぐって船場川とつづく舟入川は船場川を通った高瀬船の荷物の積み下ろし場や船溜りでした。周辺は江戸期の本多時代に城下の材木商をここへ集めたので材木町の名が付けられました。

4 見星寺

禅宗臨済宗の寺院。室町時代からある古い寺と伝えられ、裏裏地には鉄牛和尚(塙団右衛門)の卵塔があります。山門を入った所に、寛延2年(1749)に起きた船場川の洪水の犠牲者を弔う菩提碑があります。

ちょっと寄り道。

江戸時代から続く菓子かりんとう



船場城西地区は菓子作りの里といえる地域です。和菓子やオランダから伝わったといわれる油菓子を作っているお店が今も西国街道沿いや博労町を中心に残っています。

金岡製菓 姫路市博労町88 079-292-3464
二葉製菓 姫路市博労町64 079-292-3088

地元在住のガイドがまちをご案内します



姫路の街が発展する基礎を作った西国街道を中心に地元のベテランガイドによるまち歩きが楽しめます。

連絡先 : 船場城西の会事務局
090-3351-7965 (下山)
※5日前までにご予約ください